

## インターツム 2001 - ケルン国際家具産業・木材加工見本市

### デコビジョン 2001 - ファニチャー・ファブリック見本市

2001年5月18日(金)～22日(火)  
ドイツ連邦共和国 ケルン・メッセ会場

#### - ファイナル・レポート -

インターツム 2001:最も重要なメッセとしての地位を確立

117ヵ国より6万人以上が来場

出展企業も来場バイヤーも新時代の幕開けを感知

第一回インターツム賞:インテリジェントな素材とデザインで品質向上へ

デコビジョン:家具表面材・レザーのトレンド・フォーラムに高い評価

世界60ヵ国から1793社が出展参加して開催された**インターツム 2001**は、家具産業及び木材加工業界をテーマとする世界で最も重要なメッセとしての高い評価を確立しました。本年5月18日(金)～22日(火)に開催されたインターツムには、117ヵ国から6万人以上が来場し(来場バイヤーの60%以上が外国人)、関連産業の新製品やトレンドについての情報収集を行ないました。初めて設けられたインターツム賞では、インテリジェントな素材とデザインがメッセのハイライトとして脚光を浴びました。

インターツムの会場は、以下のように商品別に七大テーマに分けて配置されており、これにより来場バイヤーは容易に目的の商品に到達することが出来ました。

10号館1階:クッション加工機械

10号館2階:クッション・パーツ、カバー材、ファブリック

11号館1、2階:家具資材・インテリア半製品

12号館1、2階:木材加工、インテリア備品、フロアリング、パネル

13号館1、2階:ボード、部材、合板

13号館3階:表面仕上げ材、化粧版

14号館1、2階:ロック、金具

全体の76%を占めた外国からの出展参加で最も多かったのはイタリア(410社)で、次いでアメリカ合衆国(127社)、フランス(94社)、台湾(71社)、スペイン(67社)、ベルギー(54社)、イギリス(49社)、オーストリア(47社)、カナダ(43社)、オランダ(36社)といった順になっています。日本からは11社が出展参加し、積極的に貿易商談を進めました。

インターツムは関連業界のグローバルな交流促進の場として再認識されました。来場バイヤーの中に占め

る外国人の比率は60%を越え、前回はさらに上回りました。1999年には113カ国より59,343人が来訪していますが、そのうち外国人は56%でした。出展企業も来場バイヤーも新たな時代の幕開けを感じ取っています。ある著名な家具関連資材メーカーは「期待をはるかに上回る成果がありました」と絶賛しています。この評価はインターツムの全分野に該当します。「インターツムの商談には大変満足しています。会場では音楽が奏でられているようでした」とあるフィッティング・メーカーは語っています。

多数の外国人バイヤーがインターツムを訪れたことで、結果として外国の成長市場への進出が約束されました。また国内市場の需要は芳しくないにもかかわらず、多くのドイツ人バイヤー、特にトップクラスの有力バイヤーが来訪したことも好感されました。インターツムは関連業界に具体的な商談や情報収集の場を提供しています。周辺供給産業がこれほど中心的役割を果たすメッセは他のどこにも存在しません。製品展示以外に数々のイベントがそれを証明しています。

本年のメッセで最も注目を浴びたテーマはデザインでした。今回初めてノルトラインウエストファーレン州立デザインセンターと共同して、インターツム賞が出展企業の斬新で美しい素材及び製品に対して授与されました。すなわち合計41点の作品がデザイン賞に選ばれ表彰されましたが、出展企業はこの表彰を好意的に受け止めています。「インターツムは、初めて個々の付属部品や素材の価値及び品質をテーマとする議論を喚起しました」とある受賞者は語っています。企画開発力のある周辺産業は家具及びインテリア製品のインテリジェント・デザインに刺激を与える存在であることを、インターツム賞が明確に示してくれました。デザインというテーマによって、付属部品の持つ価値や感性に注意が向けられました。

インターツムでは関係者の要望に沿って、技術やデザインをテーマに取り上げる実践的な併催プログラムも開催されました。インターツムは、総合的な併催プログラムに示されているように、情報やコミュニケーションの場ばかりでなく、全関連業界を横断するノウハウの交換の場でもあります。

同時開催された**デコビジョン 2001**には、合計68社が出展参加しました。これは家具クッション用のファブリックとレザーの国際的なトレンド・フォーラムで、二年前に初めて開催されて成功を収めています。そして、来場者にファブリックやレザーの総合的なデザインを公開しています。またデコビジョンの併催プログラムは、小売り企業に対し販売促進に役立つ具体的な支援策を提供します。デコビジョン・ワークショップでは、「合理主義を去って、感性に訴えよう」と著名なトレンド専門家のグナー・フランクが来訪した小売り業者に助言しました。出展企業のムードは全体に大変良好でした。デコビジョンは今後毎年一度ケルンとフランクフルトで交互に開催されます。次回は2002年5月23日～25日フランクフルトで開催されます。

インターツム 2001のトレンドは要約すると以下の通りでした。

- \* フィッティングにより家具の機能と美観がさらに向上。
- \* ヒンジではデザインが最重要のテーマ。家具の内部全体が見通し可能に。
- \* インテリジェント家具: ヒンジと金具は工具不要で取り付け容易に。
- \* 資材としては木材が最も重要な素材。トレンド: 明るいブナ、カエデ、ハンノキ、針葉樹材。明るいオーク材が復活。

- \* フローリング材としては、明確な木目模様やチェリー等の暗いトーンが復帰。
- \* 省資源資材としてベニヤ板に人気。
- \* 新しい計測及び切断システムによりレザーの精密な加工が可能に。
- \* クッション材及びレザー：高級皮革に強い需要、価格上昇の影響なし。構造が明確に分かる天然皮革に需要。
- \* 機能性に優れたファブリックが重要なテーマ。織物は水をはじき汚れにくいもの。ハイテク・ファブリックが普及。

家具生産や家具クッション分野、あるいはフローリング、壁装材、床材に関する未来のデザイン・トレンドや加工技術に関する最新情報を得るには、インターツム視察が最適です。

次回のインターツムは下記の日程で開催されます。

インターツム2003年5月23日(金)～27日(火)